

地域の個性を活かした流域ガバナンスの実現に向けて

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書（素案） 概要

琵琶湖・淀川流域における課題と解決の方向性について

課題 琵琶湖・淀川流域において取り組むべき 8 つの課題

- ① 河川整備の着実な実施と総合治水・流域治水の推進
水系一貫の計画的な河川整備の推進 森林保全に一層注力
地域特性に応じた流域対応 まちづくりと連動した対策にも注力
- ② 利水システムの多重化
代替水源の確保 給排水システムの多重化 各戸貯留の普及
下水処理水の再利用 湧水・井戸水の災害時利用
- ③ 地下水の保全
流域単位で地表水と地下水の一体的保全 過剰取水の抑制
府県・市町村が足並みを揃えて対応できる制度的枠組みの構築
- ④ 水インフラの老朽化対策
効率化によるコスト縮減 維持管理に関する財源の優先確保
人口減少も見据えた選択と集中 上下水一体管理・広域化・民営化
- ⑤ 流域生態系サービスの総体的な維持・向上
調整サービスに重点 縦横断連続性の回復 農林水産業の活性化
再自然化 グリーンインフラ整備 漂着ごみ発生源対策 小さな自然再生
- ⑥ 総合土砂管理の推進
土砂災害防止法等による区域指定 流木発生を考慮した河道計画
土砂の動的平衡状態の回復（適度に土砂が流れる状態）
- ⑦ 水の危機管理の強化
新技術・情報の活用・普及 連携強化による緊急体制の構築
緊急時の施設運用の改善（ダム・堰など） 流域圏外との水融通
- ⑧ 流域文化の個性と繋がりの再生
地域の個性と役割の再認識 流域文化の多様性の維持
観光資源化 “流域の恵み”（地域資源）を活かした経済活動の自立

方向性 地域の個性を活かす流域ガバナンスの実現

統合的流域管理の必要性

- … 気候変動・人口減少で課題も変質。ひとつの自治体やセクターでは解決できない課題－“はざまの問題”－が顕在化
- … 課題解決には、行政区画を越えた流域単位の視点、行政分野を横断した視点が必要

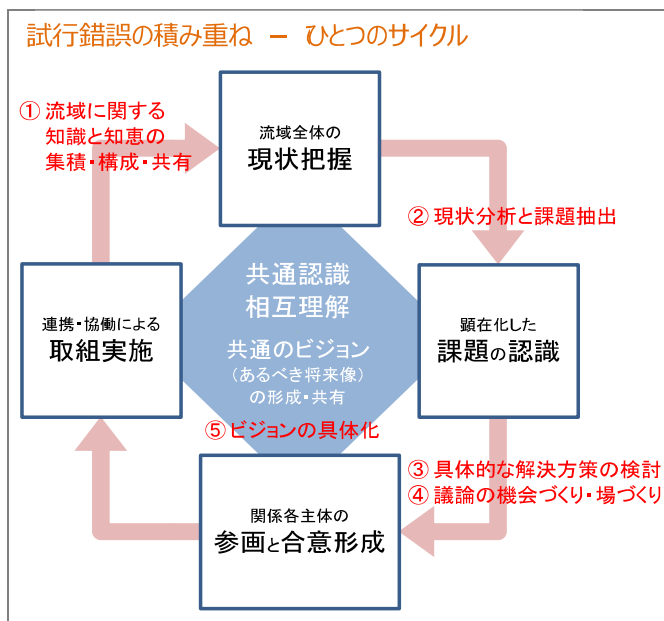
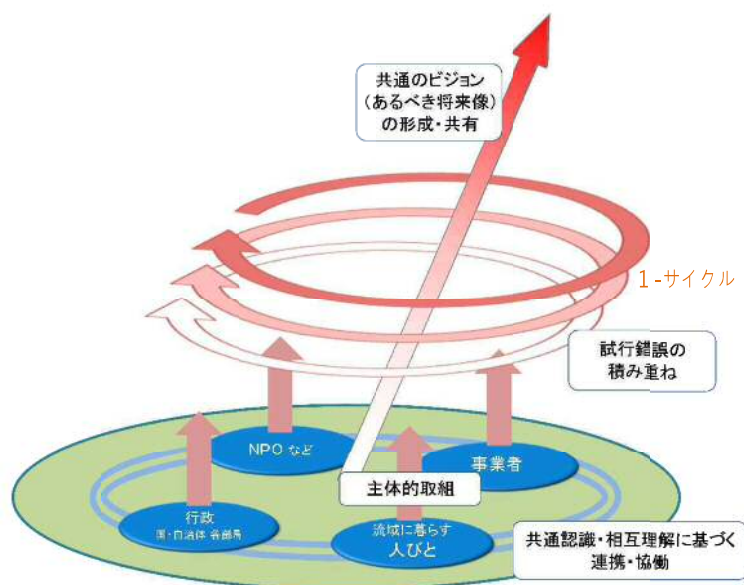
流域管理の目的 － “健全な水循環”の実現

- … 流域圏をひとつの単位として、生態系サービスの総体的な維持・向上を図りながら、水に起因するさまざまなリスクを軽減するとともに、持続可能な水利用を実現することによって、将来にわたって圏内住民ひとりひとりが享受する福利を最大化

望ましい流域管理のあり方 － 流域ガバナンス

- … 流域に暮らす人びと、NPO、民間事業者、市町村・府県・国の各部局といった流域各主体の連携・協働を基本
- … さまざまな課題に対して臨機応変に関係各主体が連携・協働し、試行錯誤を経ながら取組を積み重ねていく
- … 流域に暮らす人びとの意思を背景とした課題設定が連携・協働の動機 － 結果として政策の統合が進む

流域ガバナンスのイメージ



（裏面につづく）

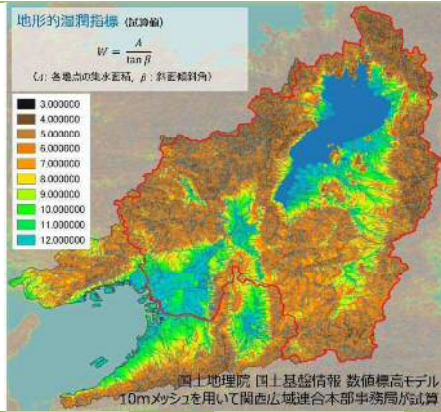
地域の個性を活かした流域ガバナンスの実現に向けて

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書（素案）概要

処方箋 流域ガバナンスの調整役（コーディネーター） - 流域ガバナンス向上のための裏方・舞台まわし

- … 自らは決定・実施せず、流域各主体によるコミュニケーションを支援し、それぞれの自主的な取組、連携・協働のお膳立て
- … 流域に関する知識・知恵を徹底して集め、提示し、流域各主体の客観的根拠に基づく政策決定をサポート

流域ガバナンスを向上させるための5つの役割

<p>①流域に関する知識と知恵の集積・構成・共有 【流域のアセスメント - 共通のものさし】 …公開データと解析技術を活用し、流域全体のリスクやサービスを地先レベルで定量評価 …学区・行政区画・流域圏など任意の範囲で集計 - ささまざまな立場から比較衡量も可能 …共通認識・相互理解の醸成 - 流域各主体による意思決定のための客観的根拠を準備 【流域の知恵】 …技術的・制度的知見、先行事例の収集・共有 【流域各主体の関心事】 …暮らす人びと、各主体の関心に耳を傾ける</p>		<p>③具体的な解決方策の検討 …技術的・制度的側面から解決可能性と代替案を検討 - ささまざまなチャンネルで提案 …画一的手法ではなく、地域の個性を尊重 ④議論の機会づくり・場づくり …課題解決に向け、連携・協働に至るまでの枠組み・プロセスを柔軟にお膳立て …課題解決と同時に各主体の関心に貢献するプロセスにより、自主的な参画を促す。 …俯瞰的な視点と知識と知恵を駆使して、流域各主体による創造的・建設的なコミュニケーションを支援</p>
<p>②現状分析と課題抽出 …流域全体の福利向上に資する課題を見出し、提案する - 流域全体を俯瞰しながら、そして、流域に暮らす人びとの立場から</p>	<p>⑤共通のビジョン（あるべき将来像）の具体化 …逐次、流域全体で共有できる共通のビジョン（あるべき将来像）の具体化を試み、問いかけ、共通認識・相互理解をより醸成</p>	

ガバナンスの調整役（コーディネーター）の4つの要件

- … ①流域各主体からの信用、②共感できる課題の設定能力 課題解決に向けての ③技術力 と ④調整能力

提案 関西広域連合の果たし得る役割

- … 未だ要件は満たさない。しかしこの先、ガバナンスの調整役（コーディネーター）を担えるように、**3つの提案**

- | | | |
|---|--|---|
| <p>提案① 流域のアセスメントの実施、および8つの課題に関連する国内外の取組事例の収集・整理を行い、定期的レポートを作成する。</p> | <p>提案② 流域の状態に関する客観的な根拠に基づき、(小さくともよいので) 優先すべき課題を取り上げ、議論の機会・場づくりと具体的な解決方策の提案を試みる。</p> | <p>提案③ 流域管理に関連する既存のさまざまなプラットフォームに積極的に参加し、俯瞰的な視点と知識・知恵を駆使して、合意形成・課題解決に貢献する。</p> |
|---|--|---|
- … 例えば、関係各主体（ステークホルダー）からの“前向きな”合意が得られれば、水循環基本法に基づく流域水循環協議会の事務局を引き受け、流域水循環計画の草案作成を行ない、合意形成に貢献することも。
 - … そして、調整役（コーディネーター）としての実務能力と信用を得たうえで、次のステップとして、流域各主体の参画のもと 関西の総意としての流域管理に関する方針を具体化し、より豊かで安心して暮らせる流域の実現に貢献することを期待。

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会

設置期間 平成 26 年 7 月～平成 28 年 7 月（平成 28 年 5 月までに 10 回開催）

諮問事項 1) 琵琶湖・淀川流域における課題整理 2) 流域対策のあり方、統合的流域管理の実現の可能性

委員	中川 博次	京都大学名誉教授（座長）		
	石田 裕子	摂南大学理工学部 准教授	津野 洋	大阪産業大学人間環境学部 特任教授
	角 哲也	京都大学防災研究所 教授	中川 一	京都大学防災研究所 教授
	多々納 裕一	京都大学防災研究所 教授	中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 教授
顧問	嘉田 由紀子	びわこ成蹊スポーツ大学 学長		
ゲストスピーカー	三橋 弘宗 (第 7 回)	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 講師	北村 裕明 (第 10 回)	滋賀大学大学院経済学研究科 教授
	新川 達郎 (第 8 回・第 10 回)	同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授	山下 淳 (第 10 回)	関西学院大学大学院法学研究科 教授